

## 紙づて

科学と芸術は人生の伴走者だ。多くの人々が芸術を愛する。一方で、若い芸術家は科学に無関心だ。科学者が自らの分野の深化にこだわり、普遍的な表現を怠るのであれば、反省しなければならぬ。

最古とされるアルタミラ洞窟壁画には躍動するシカや牛と狩猟用の矢尻が描かれ、科学と芸術は人類共通の起源だとわかる。ダビンチやミケランジェロは、偉大な芸術家かつ優れた科学者としてルネサンス時代を引っ張った。しかし、現代はC・P・スノーが「科学と芸術は対極にあり、互いに話し合うこともできない。無理解、ときには敵意と嫌悪が溝を隔てている」と指摘した不幸な状況にある。新たな時代の知識人を育てるため、科学者と芸術家は緊密に知

## 科学者と芸術家 のより 野依 りょうじ 良治

性、感性、技術を共有すべきだ。真実と美の追求における創造性は、内部から生まれるとは限らない。

アインシュタインの相対論の発見は直観だが、背後には音楽がある。ピカソの独創「キュビズム」は、同時代の最先端科学と技術に触発されて生まれたという。エックス線、放射能、電子など肉眼で見えないものの発見、無線電話、飛行機、自動車など空間を超える科学技術の発明が「自ら時空を動きまわることなく、本質は表現できない」との確信をもたらした。「アヴィニヨンの娘たち」の女性の肖像が、複数の方向から描かれているのはその結果だ。

科学と芸術には、共通する理性的認識基盤を持たなければいけない。これを阻むのは、現代教育制度の不具合と専門的職能集団がもたらすひずみだろう。

(理化学研究所理事長)